

來迎寺之田地參百八十町、此田德錢之事、任先規之旨奉寄進者也。仍寄進狀如件。

文龜元年十月廿七日

(追筆)  
長四郎三郎寄進狀

信 清 在判

來迎寺別當

文龜二年

壬戌

紀元二二六一

正月十四日。後柏原天皇、甘露寺元長に、石川郡大桑莊等を安堵せしめ給ふ。

一一〇五

當寺雜掌

【守光公記】  
加賀國大桑莊・越前國東長田庄・攝津國藏殿庄・近江國福光保并沼波庄預所職、丹後國岡田庄・尾張國靈福寺郷・洛中散在之敷地等、任當知行之旨不可有相違。件證文、去

明應元年十一月廿九日爲盜人散失云々。隨求出可備證文者也。可被全知行旨、天氣所候也。仍上啓如件。

八月三日。足利義澄、山城神護寺に、石川郡豊田村・中興保を安堵せしむ。

【伺事記録裏書文書】

清水坂神護寺領、加賀國豊田村・中興保

領、今度還讚岐國坂田

文龜二年正月十四日

(原稿)  
左少辨守光

一一〇七

郷、山城山科陵郷内田地壹町八段、并綾小路万里小路東南頼屋地口七丈、寺家敷地、同門前屋地等事、任相續之旨、彌領知不可有相違之狀如件。

文龜二年八月三日

(足利義澄)  
御 判

住持貞助房

文龜三年

癸亥

紀元二二六三

九月廿三日。幕府、山城祇園社領河北郡輕賀野保に守護被官人の押妨を停む。

【祇園社記】

一一〇八

當社領加賀國輕賀野保事、就守護被官人押領、度々雖有御成敗、于今未休之條、且巨測神慮者歟、言語道斷次第也。所詮重而被成奉書之上者、退其妨、任當知行之旨、全領知、可被專神用之由所被仰下也。仍執達如件。

文龜三年九月廿三日

(飯尾清房)  
加賀前司 在判  
(飯尾元行)  
大和守 在判

祇園社執行御房

文龜三年・永正元年

謹上 (元長) 甘露寺中納言殿

七月十日。幕府、山城東福寺に、同寺領江沼郡熊坂莊の御即位段錢を免除す。

【東福寺文書】 山城

一一〇六

東福寺領加州熊坂庄御即位反錢事、先々爲免除地之上者、可止催促之段、被成奉書於使節畢。可被存知之由所被仰下也。仍執達如件。

文龜二年七月十日

(松田顯亮)  
豐前守 在判  
(松田長秀)  
前丹後守 在判  
(飯尾清房)  
前加賀守 在判  
中務大輔 在判

文龜四年

甲子

二月三十日 紀元二二六四

永正元年

改元

二月十八日。幕府、山城石清水八幡宮善法寺に、同宮領能美郡三ヶ莊及び山上郷を安堵せしむ。

【菊大路文書】 山城

一一〇九

石清水八幡宮領加賀國能美郡三ヶ莊并山上郷等事、從往古爲守護不入之地之處、今度相懸課役及譴責云々。以外次第也。所詮早任奉書之旨、向後彌令停止諸役、全神用、可被專御祈禱之由所被仰下也。仍執達如件。

文龜四年二月十八日

(飯尾清房)  
加賀前司 在判  
(飯尾元行)  
大和守 在判

當宮善法寺雜掌

(能美郡三ヶ庄は乃美・長野・一針なり。)

三月五日。加賀守護富樫植泰、法慶道場に、石川郡富樫莊四十萬村の内を安堵せしむ。

四七一